

第6章 高市天皇（佃説）

1 高市天皇とは

(1) 高市天皇の即位

「686年9月」に天武天皇は崩御する。

- (天武) 朱鳥元年 (686年) 七月二十日、元を改めて朱鳥元年という。(朱鳥、此を阿訶美苔利 (あかみとり) という。) 仍りて宮を名づけて飛鳥淨御原宮という。
- (天武) 朱鳥元年 (686年) 九月九日、天皇の病は遂に差 (いえ) ず。正宮に崩す。
『日本書紀』

「686年7月」に「朱鳥」年号に改元している。その「2ヶ月後」の「9月」に「天武天皇」は崩御する。「朱鳥」年号は天武天皇の生存中の改元である。したがって「改元」は「天武天皇」の病気平癒を祈願して行われたといわれている。

しかし「朱鳥」年号は『万葉集』等に引用されており、「朱鳥九年」まである。『二中歴』にも「朱鳥」年号がある。

○『二中歴』の年号

- 朱雀二年 甲申
- 朱鳥九年 丙戌

「朱雀」年号は「甲申 (684年～685年)」の「2年間」であり、「朱鳥」年号は「686年～694年」の「9年間」である。『万葉集』と一致する。

「朱雀」年号は「天武天皇」の「年号」である。

□「朱鳥」年号は「高市天皇」の年号である。

- 天武天皇は生前に「高市皇子」に譲位している(67号)。
- 高市天皇の宮は天武天皇と同じ「飛鳥淨御原宮」である。

(2) 高市天皇と持統天皇の年号と在位

「696年7月」に高市天皇は崩御する。

○高市天皇の年号と在位

- 朱鳥 686年7月～694年12月 (即位、藤原京へ遷都)
- 大和 695年1月～696年7月 (高市天皇崩御)

○持統天皇の年号と在位

- 大化元年 696年8月～696年12月（持統天皇即位、改元）
- 大化二年 697年1月～697年8月（文武天皇へ譲位）
(注)「持統天皇」の在位は「1年」だけである(67号、68号、75号)。

2 「高市天皇紀」

(1) 『日本書紀』の「持統天皇紀」

『日本書紀』は「高市天皇」を抹殺している。「高市皇子」は即位しておらず、「持統」が即位したと捏造している。

□『日本書紀』の「持統天皇紀」は「高市天皇紀」である。

- 「高市天皇」の子は「長屋親王」である。
- 『続日本紀』は『日本書紀』に合わせて「長屋親王」を「長屋王」に改竄している(67号、75号、古代史の復元⑦『天智王権と天武王権』)。

3 藤原京の造営

(1) 天武天皇による「元藤原京」の造営

藤原京の造営は「壬午(天武11年(682年))」から始まっている。それを示す木簡が「藤原京」の下層から出土している(75号)。

□天武天皇が造営した「元藤原京」は「682年」から造営が始まっている。

(2) 元藤原京の検証

『万葉集』に次の歌がある。

○壬申の年の乱の平定以後の歌二首

- 皇(おおきみ)は 神にし座(ま)せば 赤駒の 腹ばゆ田井を 京師(みやこ)となしつ
『万葉集』4260番
右一首は大將軍贈右大臣大伴卿作れり。
- 大王(おおきみ)は 神にし座(ま)せば 水鳥の すぐく水沼を 皇都(みやこ)となしつ
『万葉集』4261番

「壬申の年の乱の平定以後の歌」とあるから「天武天皇」を詠った歌である。「皇(おおきみ)」、「大王(おおきみ)」は「天武天皇」である。

「天武天皇」は「神」であるから湿地帯を都(京師、皇都)にしたと称えている。

「都(京師、皇都)」は「藤原京(元藤原京)」である。

(3) 高市天皇と天武天皇陵（大内陵）

「686年9月」に天武天皇は崩御する。「高市天皇」は「天武天皇陵」を造営する。

（持統）元年（687年）十月、皇太子、公卿・百寮人等併せて諸国司・国造
及び百姓男女を率いて、始めて大内陵を築く。 『日本書紀』

「皇太子」とあるのは「高市天皇」である。

「688年11月」に天武天皇は大内陵に埋葬される。

（持統）二年（688年）十一月、畢（おわり）て大内陵に葬す。

『日本書紀』

(4) 「藤原京」を造り直す

天武天皇が造った「元藤原京」の中軸線上に「大内陵」はのっていなかった。

「高市天皇」は考えた。

「天武天皇」は「天下を統一」すると、「律令」を制定し、「国史」を編纂し、「戸籍」を作り、唐に見習った律令国家を建設した。この偉大な「天武天皇」を万代まで国民が崇め奉るようにしなければならない。

それには天武天皇を埋葬した「大内陵」が「藤原京」の中軸線上に来るようになるのが良い。

「高市天皇」は「元藤原京」を壊して新しく「藤原京」を造り直した（75号）。